

骨考古学分科会 三浦半島の縄文時代から古墳時代の古人骨

11月5日 C会場 15:00-16:40

オーガナイザー：杉山 浩平（東京大・総合文化）・米田 穰（東京大・総合博）

神奈川県三浦半島では、貝塚・海蝕洞穴遺跡・古墳などから多くの古人骨が出土しており、人類学的研究が古くから進められてきた。特に半島南部に分布する海蝕洞穴からは、層位的に古人骨が考古学的資料を伴いつつ出土している。しかし、海蝕洞穴遺跡の発掘調査の多くは、昭和30年代から40年代に行われたものが多く、調査時の記録とその精度は、非難されるべきことではないが、今現在の視点から見ると不十分である。それゆえ、杉山らは平成26年度から科研費にて三浦市白石洞穴遺跡の学際的な発掘調査を進めており、これまで古墳時代から古代の古人骨資料を検出した。また、発掘による新資料の分析のみならず、地元自治体や大学機関等で保管されていた三浦半島の既出土の人骨資料の調査も併行して進めている。この研究では、弥生時代以降の稲作農耕社会において、海を舞台として生活を立てた「海人集団」の姿の抽出し、稲作農耕民との対時的検証を意図している。本セッションでは、近年鎌倉等で検出された古墳時代の石棺墓の資料も加えた上で、形質学的・理化学的成果ならびに考古学・文化財科学的知見と併せて、三浦半島の古人骨を対象に年代と食性と行動等を検討する。

- S9-1 三浦半島の先史・原始の墓と人骨―三浦市白石洞穴遺跡の発掘調査を中心として／杉山 浩平（東京大・総合文化）
- S9-2 土器の胎土分析が示す弥生人の移動―伊豆諸島から相模湾、三浦半島へ／池谷 信之（明治大・黒曜石センター）
- S9-3 三浦半島の貝塚出土の動物遺体からみる縄文時代から古墳時代の食料／劔持 輝久（横須賀考古学会）
- S9-4 三浦半島における食生態の時代変遷／米田 穰（東京大・総合博）
- S9-5 三浦半島における墳丘を持たない古墳時代から古代の石棺墓出土人骨の研究／奈良 貴史（新潟医療福祉大）
- S9-6 三浦半島の貝塚・海蝕洞穴遺跡から出土した人骨―縄文～弥生時代を中心として／佐宗 亜衣子（東京大・総合博）